

平成14年度秋田県公営企業会計決算審査意見書 (審査の結果及び意見)

1 電気事業会計

1 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、その調製手続き及び計数に誤りがなく、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示していることを確認した。

2 経営状況について

(1) 経営成績について

平成14年度の電気事業会計の経営成績は、収益総額39億2,370万円、費用総額35億1,088万円で、差し引き4億1,282万円の当年度純利益となっている。

当年度純利益は、夏期の台風、寒冷前線通過に伴う豪雨等により、売電電力量が前年度に比較し2,122万KWH、5.1%増加したことや人件費等の営業費用が大幅に減少したことなどにより、前年度より2億5,118万円の増加となっている。

(2) 財政状態について

平成14年度末の財政状態は、資産総額296億2,852万円、負債総額3億4,220万円で、資本総額は292億8,632万円となっている。

前年度末に比較して、資産総額が5億4,472万円(1.8%)、負債総額が2億913万円(37.9%)の減となったため、資本総額が3億3,559万円(1.1%)減少したものの、財政状態は良好である。

また、流動資産は73億9,706万円、流動負債が1億6,140万円で、正味運転資本は差し引き72億3,566万円と、前年度末より1億7,013万円(2.4%)増加している。

3 留意改善を要する事項

審査の結果、定期監査及び例月出納検査の場で指導・助言した事項以外には、特に留意改善を要する事項はなかった。

なお、当事業の場合、経営収入が降水量の増減に大きく影響されるほか、施設設備の改良工

事の増加や電力会社からのコスト削減要求が厳しくなっていることから、今後とも一層の効率的経営に努めていく必要がある。

2 土地造成・資金運用事業会計

1 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、その調製手続き及び計数に誤りがなく、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示していることを確認した。

2 経営状況について

(1) 経営成績について

平成14年度の土地造成・資金運用事業会計の経営成績は、収益総額9億253万円、費用総額19億7,245万円で、差し引き10億6,992万円の当年度純損失となっている。

これは、平成14年度において土地売却が進み、3億2,458万円の営業利益を計上したものの、14年度で営業を終了した男鹿水族館の累積赤字を解消するため、観光施設事業会計に13億9,513万円の補助金を交付したことによるものである。

なお、当会計では、平成14年度に造成土地の貸付制度を導入し、収益の増加に努めている。

(2) 財政状態について

平成14年度末の財政状態は、資産総額226億714万円、負債総額7,869万円で、資本総額は225億2,845万円となっている。

前年度末に比較して資産総額が12億2,433万円(5.1%)の減、負債総額が5,426万円(222.1%)の増となったため、資本総額は12億7,859万円(5.4%)減少したものの、財政状態は良好である。

また、流動資産(造成土地及び土地造成勘定を除く。)は120億4,623万円、流動負債は5,341万円で、正味運転資本は差し引き119億9,282万円となり、前年度末より6億6,736万円(5.3%)減少している。

なお、秋田新都市の造成費に充てられた一般会計からの借入金については、造成土地の売却

が進まないため平成5年度から借り換えを行っている。

3 留意改善を要する事項

審査の結果、定期監査及び例月出納検査の場で指導・助言した事項以外には、特に留意改善を要する事項はなかった。

3 観光施設事業会計

1 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、その調製手続き及び計数に誤りがなく、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示していることを確認した。

2 経営状況について

(1) 経営成績について

平成14年度の観光施設事業会計の経営成績は、収益総額3億9,813万円、費用総額9億7,471万円で、差し引き5億7,658万円の当年度純損失となっている。

これは、男鹿水族館が平成14年8月末で営業を終了したこともあって、営業費用が前年度より8,729万円減少したものの、入館者の減少や男鹿桜島荘の利用客の減少により営業収益が前年度より4,959万円減少したほか、男鹿水族館の解体に伴い特別損失を5億9,048万円計上したことによるものである。

(2) 財政状態について

平成14年度末の財政状態は、資産総額9億204万円、負債総額1億3,075万円で、資本総額は7億7,129万円となっている。

前年度末に比較して資産総額が6億4,565万円(41.7%)、負債総額が4,058万円(23.7%)の減となったため、資本総額が6億507万円(44.0%)減少している。

また、流動資産は8,446万円、流動負債が3,210万円で、正味運転資本は差し引き5,236万円と、前年度末より8,596万円(62.1%)減少している。

3 留意改善を要する事項

観光施設事業については、男鹿桜島荘の利用客の減少など経営状況が一層厳しさを増しており、抜本的な対策を早急に講ずる必要がある。

4 工業用水道事業会計

1 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、その調製手続き及び計数に誤りがなく、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示していることを確認した。

2 経営状況について

(1) 経営成績について

平成14年度の工業用水道事業会計の経営成績は、収益総額9億2,514万円、費用総額6億9,773万円で、差し引き2億2,741万円の当年度純利益となっている。

当年度純利益は、原水・浄水費などの営業費用の節減に努めた結果、経常利益が前年度に比べ497万円(2.1%)増加したものの、平成13年3月に事業廃止した大館工業用水道の取水設備等の資産処分に伴い特別損失を1,467万円計上したため、前年度より970万円減少した。

(2) 財政状態について

平成14年度末の財政状態は、資産総額532億8,982万円、負債総額3億4,532万円で、資本総額は529億4,450万円となっている。

前年度末に比較して、資産総額が10億9,389万円(2.1%)の増、負債総額が5,395万円(13.5%)の減となったため、資本総額は11億4,784万円(2.2%)増加し、財政状態は良好である。

また、流動資産が22億2,981万円、流動負債が8,953万円で、正味運転資本は差し引き21億4,028万円と、前年度末より4,642万円(2.2%)増加している。

しかしながら、玉川ダム建設に伴う水源費(玉川ダム維持管理費負担金を含む)や第二工業

用水道建設費（総額248億3,090万円、前年度末比4億4,171万円の増）が建設仮勘定に累積計上されており、第二工業用水道の建設事業は休止しているものの、将来における建設仮勘定の処理に伴う新たな経費負担や支払い利息の増嵩という大きな不安要因を抱えている。

3 留意改善を要する事項

秋田第二工業用水道については、大王製紙株式会社の進出中止により、これまでの工事等に伴う負債の処理が大きな課題になっているほか、秋田工業用水道についても、施設設備の老朽化に対応した新たな投資が予想されるので、引き続き経営の効率化に努めていく必要がある。